



Sustainability



Health



Comfort

株式会社三菱ケミカルホールディングス 会社紹介

(証券コード：4188)

2017年12月開催

株式会社三菱ケミカルホールディングス
理事役 広報・IR室長 高阪 肇

THE KAITEKI COMPANY

本日の内容

1 私たち、三菱ケミカルホールディングスは総合化学会社です

1-1 会社概要

1-2 事業領域と業績

2 三菱ケミカルホールディングスのこれから

2-1 中期経営計画について

2-2 2020年度に向けた運営方針

2-3 成長戦略

3 KAITEKI経営の深化

4 当社の株式について



1. 私たち 三菱ケミカルホールディングスは 総合化学会社です

1-1 会社概要

1-2 事業領域と業績

1-1 会社概要

資本金

500億円

連結売上高

3兆3,761億円

業界内ポジション

国内 1 位、世界 5 位

(出所) Thomson Reuters (FORTUNE Global 500) による各社直近期 Data (2017 年)

連結コア営業利益

3,075 億円

※コア営業利益
IFRS の営業利益から非経常的な要因により発生した損益を除いた経常的な利益

連結従業員数

69,291人

関係会社数

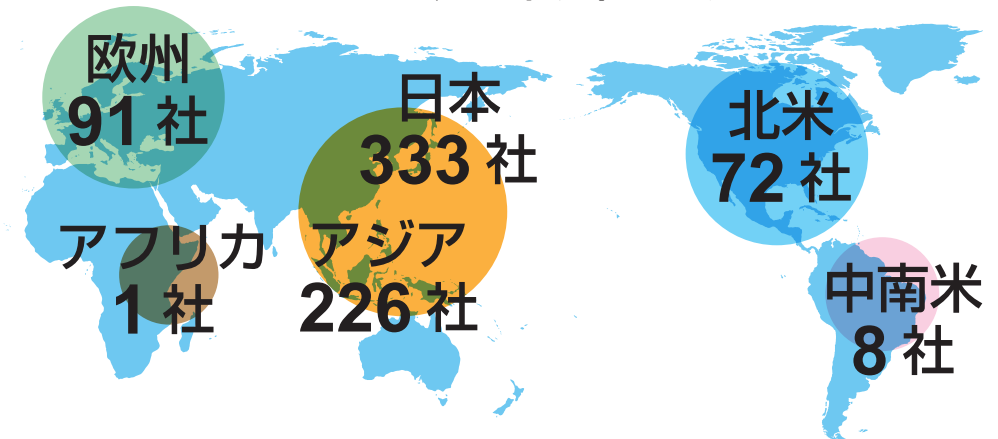
731社

海外売上高比率：39.5%
(2017年3月期実績)



取締役代表執行役社長 越智 仁




グローバル・ネットワーク



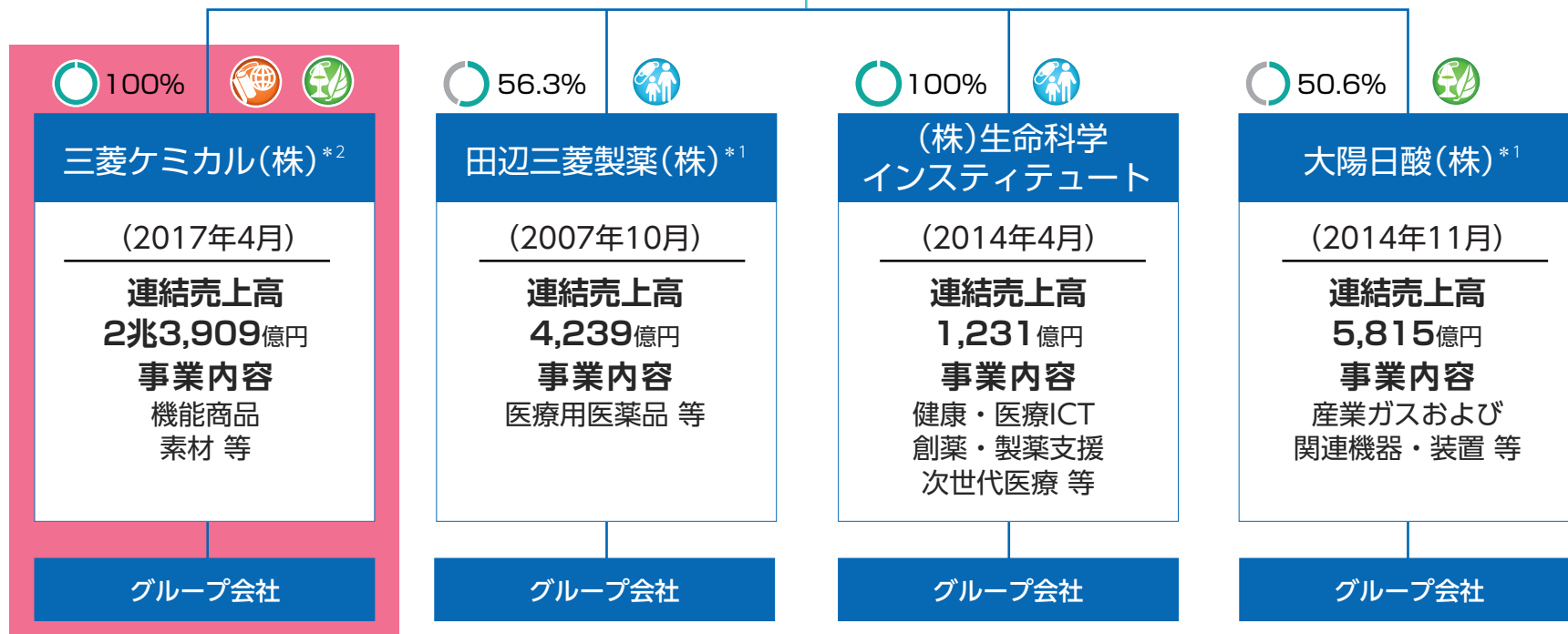
1-1 会社概要

株式会社三菱ケミカルホールディングス

(2005年10月～)

事業領域： 機能商品  素材  ヘルスケア

連結従業員数：69,291人（2017年3月現在）



*1: 上場会社

*2: 三菱ケミカル(株)は、2017年4月1日に三菱化学(株)、三菱樹脂(株)、三菱レイヨン(株)の統合により発足しました。
なお、上記連結売上高は3社合算合計数値です。

1-1 会社概要

機能商品 10,719億円 32% 2016年度 売上収益 (IFRS) 全体に占める割合	情電・ディスプレイ	光学系フィルム、液晶・半導体関連等	 三菱ケミカル
	高機能フィルム	食品包装材、工業用・医療用フィルム等	
	環境・生活ソリューション	アクア、イオン交換樹脂、アグリ、インフラ等	
	高機能成形材料	炭素繊維、アルミナ繊維、高機能エンプラ等	
	高機能ポリマー	フェノール・ポリカーボネート、機能性樹脂等	
	高機能化学	スペシャリティケミカルズ、食品機能材等	
	新エネルギー	LiB材料、オプトエレクトロニクス材料、OPV等	
素材 15,587億円 46%	MMA	MMA (原料)、PMMA (アクリル樹脂) 等	 大陽日酸 The Gas Professionals
	石化	石化原料および誘導品、ポリオレフィン等	
	炭素	コークス、高純度グラファイト、カーボン・ゴム等	
	産業ガス	産業ガス、産業ガス関連機器・装置等	
ヘルスケア 5,470億円 16%	医療用医薬品	医療用医薬品等	 田辺三菱製薬
	ライフサイエンス	臨床検査、診断薬・機器、カプセル・製剤機器、医療用原薬・中間体、健康セルフチェック等	



1. 私たち 三菱ケミカルホールディングスは 総合化学会社です

1-1 会社概要

1-2 事業領域と業績

1-2 事業領域と業績

業績推移

■ 構造改革の徹底により、2016年度はコア営業利益 (IFRS) ベースで最高益

	2011年度 実績 (日本基準)	2012年度 実績 (日本基準)	2013年度 実績 (日本基準)	2014年度 実績 (日本基準)	2015年度 実績 (日本基準)	2016年度 実績 (IFRS基準)
売上高	3.2兆円	3.1兆円	3.5兆円	3.6兆円	3.8兆円	3.4兆円
営業利益	1,305億円	902億円	1,105億円	1,657億円	2,800億円	3,075億円
海外売上高比率	37%	36%	40%	42%	43%	40%

事業分野別営業利益推移

M&Aの実績：売上影響金額 + 1兆4,000億円

日本合成化学工業
(2012年12月株式過半取得
2016年完全子会社化)

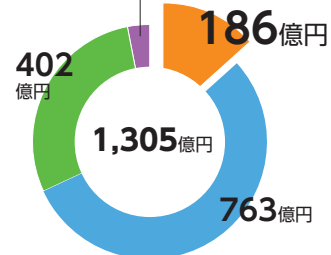
クオドラント
(2013年5月完全子会社化)
クオリカプス (2013年3月買収)

大陽日酸
(2014年11月連結子会社化)

日本化成
(2017年1月完全子会社化)

機能商品 素材 ヘルスケア

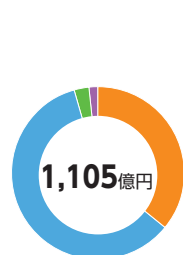
その他、コーポレート △41



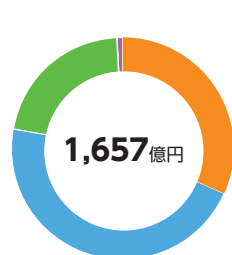
2011年度



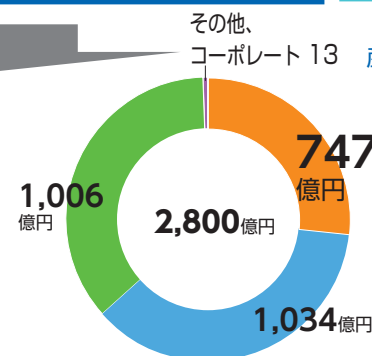
2012年度



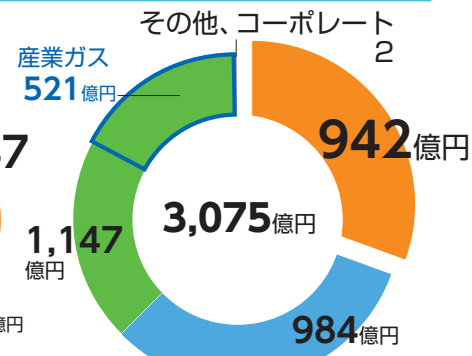
2013年度



2014年度



2015年度



2016年度

撤退・再構築の実績
売上影響金額 ▲ 4,500億円

1-2 事業領域と業績

2017年度の実績

- 機能商品分野を中心に総じて販売が伸長
- 素材分野においてMMA等の石油化学製品の市況が好調に推移

2017年度予想および上半期実績

■ コア営業利益(分野別損益通期実績)

(億円)

分野	2017年度予想(2017.10.26発表)	2017年度上半期	進捗率(50%=6ヶ月/12)
機能商品	990	508	51%
素材	1,830	1,000	55%
ヘルスケア	840	410	49%
その他	-10	5	-50%
合計	3,650	1,923	53%
親会社の所有者に帰属する 当期純利益	1,800	1,005	56%



2. 三菱ケミカルホールディングスのこれから

- 2-1 中期経営計画とアクションプランの進捗
- 2-2 2020年度に向けた運営方針
- 2-3 成長戦略

2-1 中期経営計画とアクションプランの進捗

概略・基本方針

名称 アプトシス **APTSIS 20**
期間 2016～2020年度

- 機能商品、素材、ヘルスケア分野の事業を通じて、高成長・高収益型の企業グループをめざす

基本方針

高成長

- ▶ グループにおけるインテグレーション・協奏促進
- ▶ 海外事業の展開加速とマネジメント深化

高収益

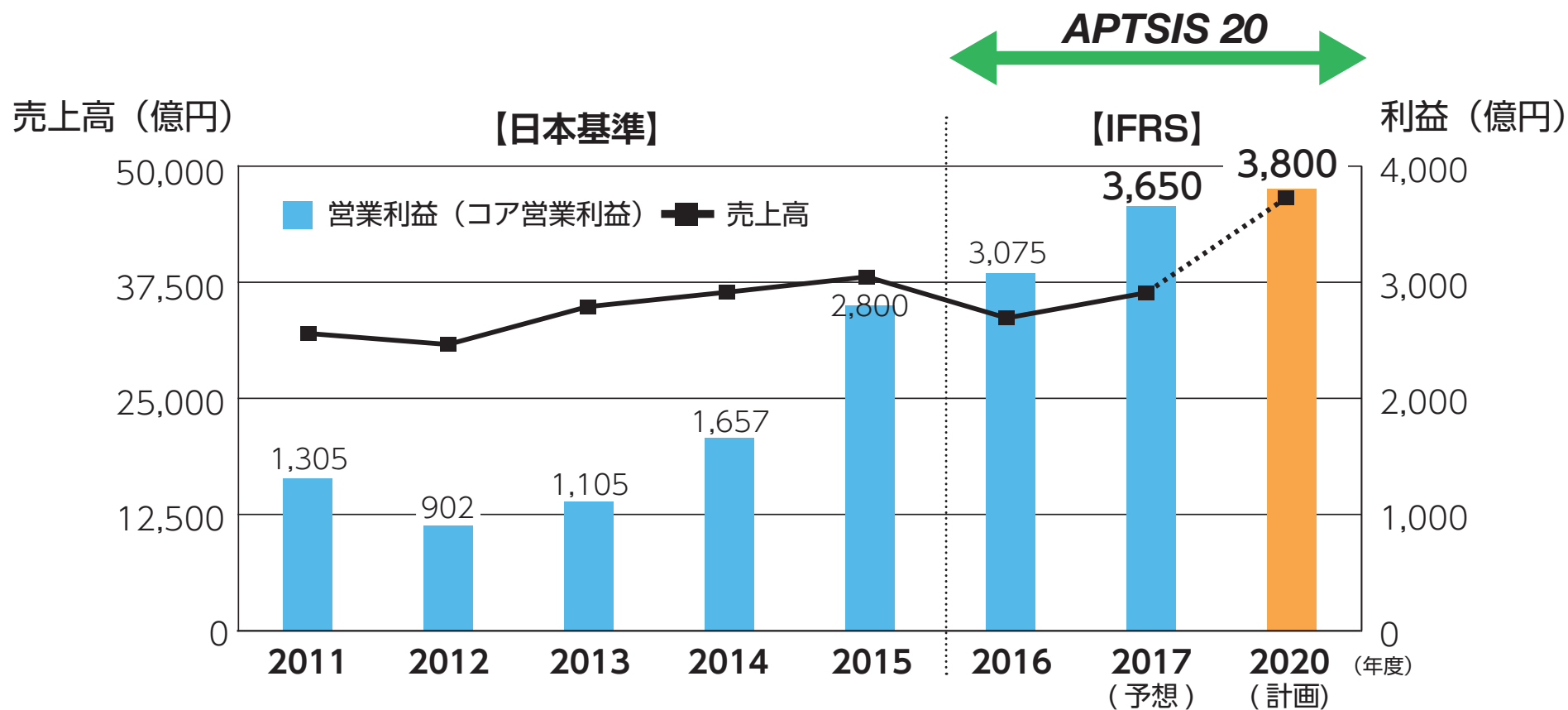
- ▶ 収益性を意識したポートフォリオ・マネジメントの強化
- ▶ コスト削減等を通じた生産性の高い企業体質の実現

財務基盤強化

2-1 中期経営計画とアクションプランの進捗

概略・基本方針

■ APTSYS 20において成長は確実に進展



ROE(%)	4.6	2.3	3.7	6.4	4.8	15.1	15	>10
--------	-----	-----	-----	-----	-----	------	----	-----

2-1 中期経営計画とアクションプランの進捗

2020年度数値目標

- 事業戦略と財務戦略を両輪として、資本効率を向上させROE10%以上の経営体制を実現する

財務指標		2020年度目標 APTSIS20	2017年度予想 (10/26)
	コア営業利益	3,800億円	3,650億円
	ROS（コア営業利益）	8%	10%
	親会社の所有者に帰属する 当期純利益	1,800億円	1,800億円
	ROE	12%	15%
	Net D/E レシオ	0.8	0.98

2-1 中期経営計画とアクションプランの進捗

2020年度に向けて

機能商品

三菱ケミカル発足による統合効果と協奏

ポートフォリオマネジメント強化と
市場動向の変化に対応した成長戦略

素材

MMA、産業ガス
世界シェア維持・拡大

石化 生産最適化による基盤強化

ヘルスケア

医療用医薬品
パイプライン強化
米国展開

ライフサイエンス
次世代ヘルスケア
健康・医療
ICTビジネス推進

グローバル市場へのアクセス・マーケティング力強化（リージョナルヘッドクォーター設立等）

次世代テーマの早期事業化（R&D、オープンイノベーション）

KAITEKI経営の深化、健康経営の推進、IoT・デジタルフォーメーション

赤字：今期までに実行した重点施策

青字：今後実施する重点施策

2-1 中期経営計画とアクションプランの進捗

分野別の取り組み

■中期経営計画に沿って、各分野で施策を着実に実行

機能商品

- **グループ協奏、インテグレーション促進**
 - 日本合成化学工業を完全子会社化
 - 日本化成を完全子会社化
 - **合成樹脂エマルジョン事業統合**
- **海外事業の収益性強化**
 - **ポリエステルフィルム 米国増設**
 - Quadrant 米国Piper Plastics買収
 - 炭素繊維
 - 米国増設 営業運転開始
 - **SGL米国拠点買収**
 - **C.P.C.社資本参加**
- **新エネルギー事業の早期収益化**
 - 電池材料事業収益の継続的改善
 - 宇部興産社との電解液事業アライアンス (中国当局承認)

素材

- **不採算事業と低収益事業の抜本対策**
 - テレフタル酸 (インド・中国) 事業売却
- **海外事業の収益性強化**
 - **MMA中東プロジェクト 試運転中**
 - 産業ガス
 - Air Liquid 社より、米国の一部事業・資産買収
 - 豪州 Supagas社買収
 - **米国 空気分離装置建設**
 - **3Dプリンターメーカーへの出資**
- **生産性の高い企業体質の実現**
 - 水島エチレンセンター集約
 - **PP五井プラント建設中 (15万トン)**
 - UTT広域連携検討

ヘルスケア

- **米国事業の基盤構築**
 - **ラジカヴァ米国販売開始**
 - **ニューロダーム社買収**
 - **ステリック社買収**
- **持続的成長と収益力強化**
 - **ワクチン製造合併会社 (株) BIKEN設立**
- **生産性の高い企業体質の実現**
 - APIC 袋井工場売却
 - **ジェネリック医薬品事業の譲渡**
 - **遺伝子組み換え 人血清アルブミン製剤事業の見直し**
- **再生医療の取り組み**
 - **Muse細胞を用いた再生医療製品の開発・臨床試験の開始 (2017年度中)**

2-1 中期経営計画とアクションプランの進捗

分野別の取り組み

■ グローバル拠点への積極的な投資と海外マーケティングの強化

ポリエステルフィルム新ライン建設

- 北米における高機能フィルム製品増産
2018年4月稼働予定(25,000トン/年)

炭素繊維事業拡大

- SGLの炭素繊維米国製造拠点を買収
風力発電用のブレード(翼)や自動車の軽量化材料用途向け材料
- 自動車市場向けCFRP製造販売会社(C.P.C.社)に出資(44%)
- 北米焼成ライン増設・稼働(2017年、2,000トン/年)
- 大竹ラージトウ焼成ライン増強
(2017年、2,700 → 3,900トン/年)

※ CFRP: 炭素繊維強化プラスチック

リージョナルヘッドクォーター設立

- 米国、欧州、中国、アジア・パシフィックに地域統括会社を設置
- モビリティ・パッケージングの重点分野へのマーケティングと地域戦略の策定



ポリエステルフィルム 北米 新ライン外観



C.P.C. 世界最大規模の複合材料プレス設備

2-1 中期経営計画とアクションプランの進捗

投融資計画進捗

- 投融資を中心に、**2,000億円増額** 1.5⇒1.7兆円（機能商品）
- R&D投資は3年で **250億円増額**（機能商品、ヘルスケア）

重点投融資事業領域

機能商品

新規市場

高機能フィルム

食品機能材

高機能ポリマー

⇒ ポリエステルフィルム新ライン

新規技術

高機能エンブラ

炭素繊維複合材料

機能化学品

⇒ C.P.C.

素材

海外展開

産業ガス

MMA

⇒ 米国・豪州事業強化

ヘルスケア

北米展開

医療用医薬品（スペシャリティ領域）

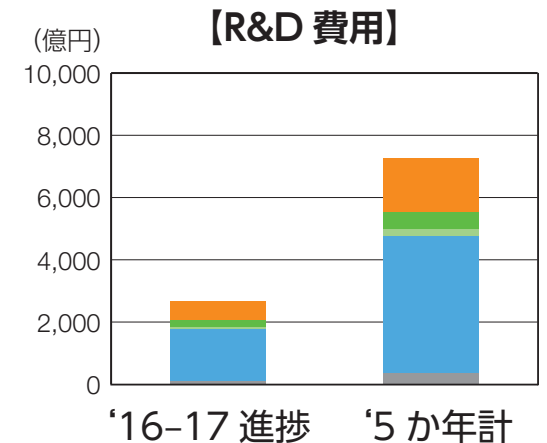
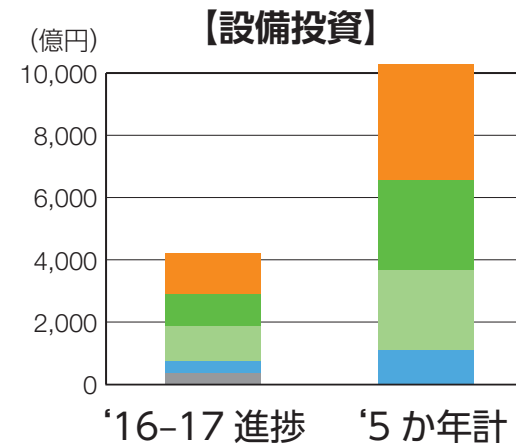
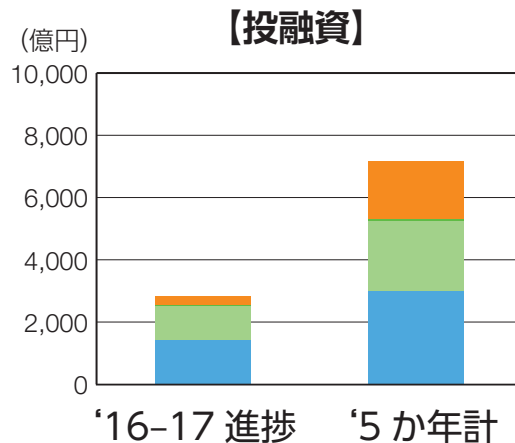
⇒ ニューロダーム社

新規市場

健康・医療 ICT

【資源配分イメージ】

- 機能商品
- ケミカルズ
- 産業ガス
- ヘルスケア
- その他





2. 三菱ケミカルホールディングスのこれから

2-1 中期経営計画とアクションプランの進捗

2-2 2020年度に向けた運営方針

2-3 成長戦略

2-2 2020 年度に向けて

ポートフォリオマネジメント強化

- 成長事業の選択と集中、資源の優先配分
- トータル売上収益で3,000億円相当の事業の再構築を検討・加速

アクション

- 定期的なモニタリングによるPDCAサイクル実施
- 資源配分計画
- ポートフォリオ判断(含 縮小・撤退・事業売却)

次世代事業

- R&D
- オープンイノベーション

成長事業

- 成長戦略
- R&D
 - 協奏
 - M&A

指標

- 成長性指標 (売上高成長率)
 - ▷ 4%/y 以上
(世界経済成長率予測3.5%*)
- 収益性指標(ROS)
 - ▷ 機能商品 8%以上
 - ▷ 素材 5%以上
 - ▷ ヘルスケア 14%以上
- 資本効率性指標(ROIC)
 - ▷ 機能商品 8%以上
 - ▷ 素材 5%以上
 - ▷ ヘルスケア 8%以上**

再構築事業

再構築

基盤事業

- 成長戦略
- 協奏
 - M&A

撤退
・
売却
・
JV化

*2016-2020年平均 IMF予測
**現預金等を除いて算出



2. 三菱ケミカルホールディングスのこれから

2-1 中期経営計画とアクションプランの進捗

2-2 2020年度に向けた運営方針

2-3 成長戦略

2-3 成長戦略

フォーカスマーケット

グループ理念・ビジョン

Good Chemistry for Tomorrow

人、社会、そして地球環境のより良い関係を創るために。

KAITEKI 実現

メガトレンド

- 気候変動の増大、水資源の汚染・不足
- 人口の増加と高齢化の進展
- グローバル化と新興国の発展、地域経済圏の拡大
- 産業のデジタル化、モジュール化、ICT化
- 医療費の増加、再生医療・個別化医療の進展

取り組むべき社会課題

- 資源・エネルギーの効率的利用
- 気候変動への対応 (CO2 削減)
- 清浄な水資源の確保
- 食料・農業問題への対応
- 健康維持・疾病治療への貢献
- スマート社会への対応

フォーカスマーケット

1.自動車・航空機 (モビリティ)

事業規模：3,000億円 (2015年度)
3,100億円 (2017年度)
4,200億円 (2020年度)

2.IT・エレクトロニクスディスプレイ

事業規模：2,200億円 (2015年度)
2,300億円 (2017年度)
3,000億円 (2020年度)

3.メディカル・バイオ・フード

事業規模：800億円 (2015年度)
850億円 (2017年度)
1,500億円 (2020年度)

4.ヘルスケア (医薬品・ヘルスケアソリューション)

事業規模：5,400億円 (2015年度)
5,500億円 (2017年度)
6,500億円 (2020年度)

5.環境・エネルギー

事業規模：1,350億円 (2015年度)
1,500億円 (2017年度)
2,400億円 (2020年度)

6.パッケージング・ラベル・フィルム

事業規模：1,650億円 (2015年度)
1,750億円 (2017年度)
2,300億円 (2020年度)

2-3 成長戦略

フォーカスマーケット（モビリティ）

■ 炭素繊維：鉄より強く、アルミより軽い炭素繊維 CO2削減や省エネルギーに貢献



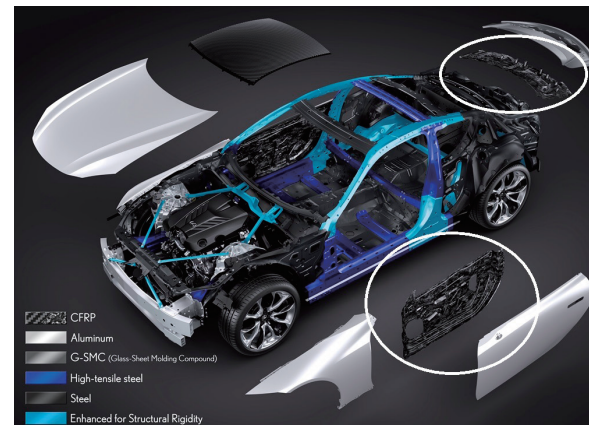
気候変動

- ✓ 軽くて強い
- ✓ 優れた耐食性
- ✓ 環境にやさしい

炭素繊維 のここが **KAITEKI**



新型「プリウスPHV」のバックドアの骨格部材に供給
量産車初採用(2017年3月～)



レクサス新型ラグジュアリークーペ [LC500] [LC500h]
のドアインナー及びラゲッジインナーに採用(2017年5月～)



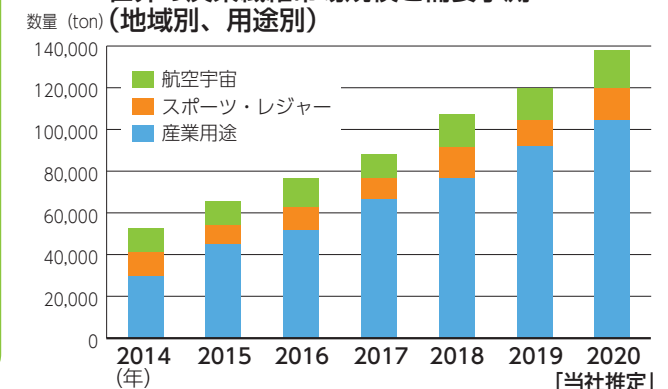
プレミアムスポーツクーペ Audi
A5のルーフに採用(2017年6月～)

APTSIS 20 (2016年度～2020年度) アクションプラン

- 欧州自動車市場で販売強化・製品開発
- 産業用途を中心に需要の飛躍的急増に対応した増設（10 → 18kt/y）計画
- 急成長が見込まれる環境対応の自動車分野でトップポジション獲得

以上の施策により、2020年に売上高1,000億円をめざす

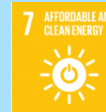
世界の炭素繊維市場規模と需要予測



2-3 成長戦略

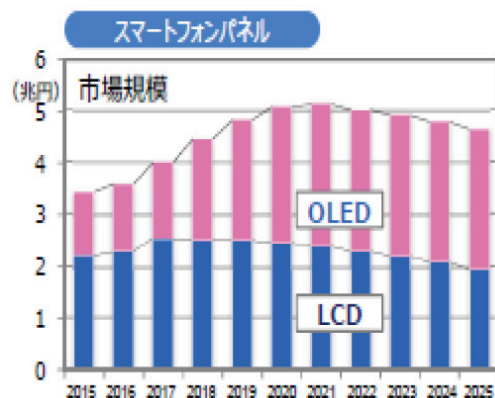
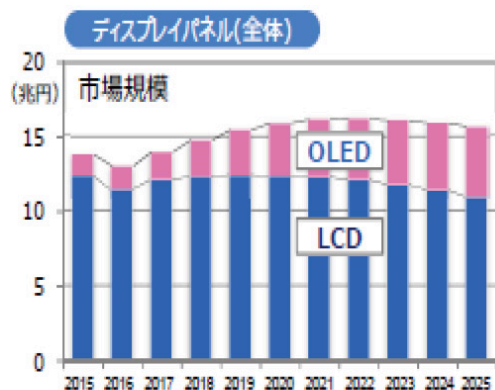
フォーカスマーケット
(IT・エレクトロニクス・ディスプレイ)

- 液晶ディスプレイ (LCD) 向けフィルムの競争優位性を堅持することに加え、有機EL (OLED) 向け部材の市場増大を確実に取り込む

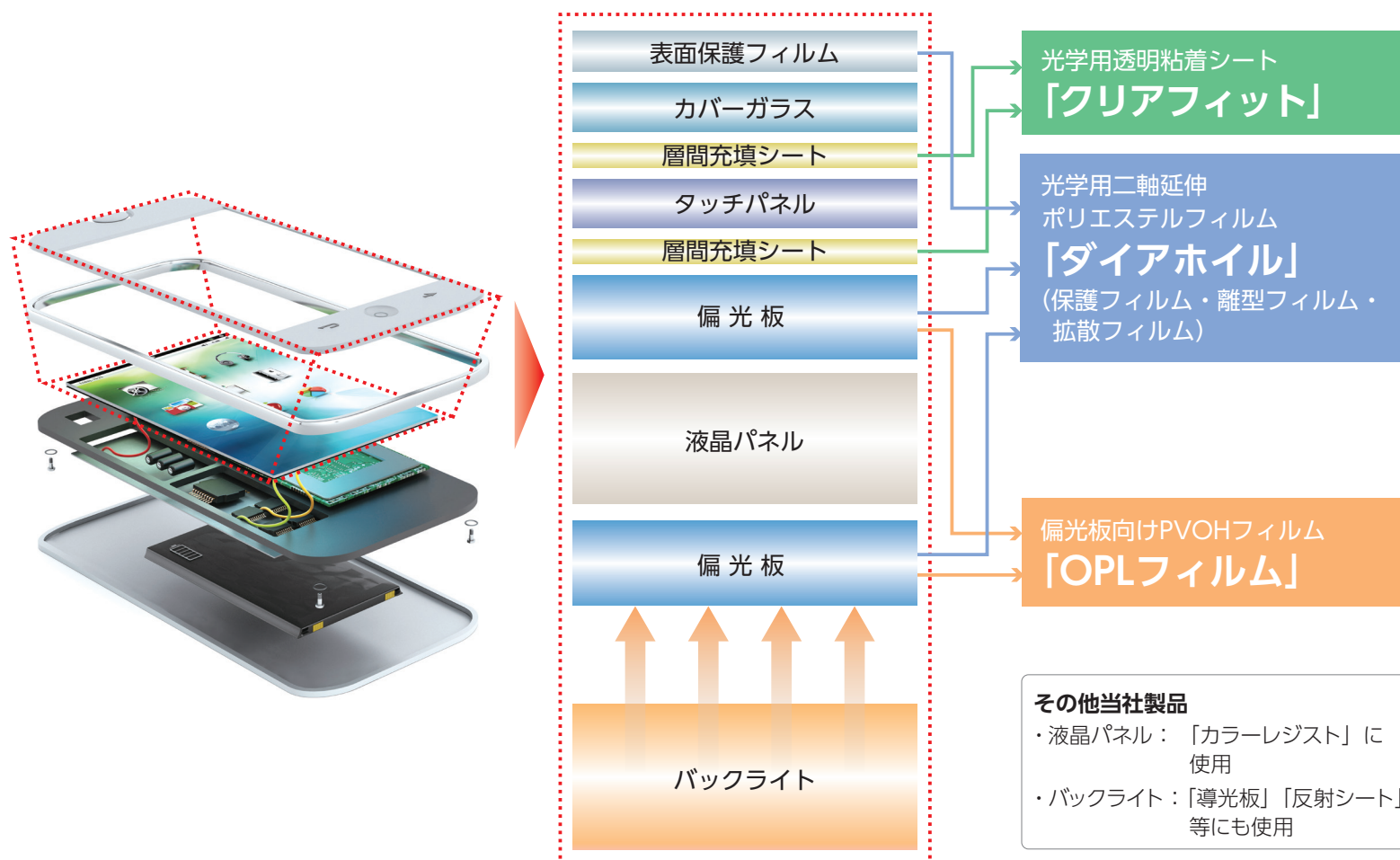


世界のディスプレイ市場

ディスプレイ市場は、今後も2020年に向けて堅調に推移。スマホ向けはOLEDが伸長



スマートフォンの構成例



2-3 成長戦略

フォーカスマーケット
(メディカル・バイオ・フード)

■ エンジニアリングプラスチックで医療・ライフサイエンス分野に貢献



医療・ライフサイエンス分野におけるエンプラの **ここが KAITEKI**

健康

- ✔ 優れた特性で人工関節の耐久性を向上
- ✔ 軽量化と潤滑性に優れているので様々な用途で活用

生体適合性のエンジニアリングプラスチック



股関節 (PE)



膝関節 (PE)



脊髄 (PEEK)

APTSIS 20 (2016年度～2020年度) **アクションプラン**

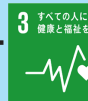
今後、高機能エンジニアリングプラスチックと炭素繊維・複合材料のシナジーを創出し、
2020年度メディカル事業※売上高 1,000 億円規模を目指す

※ 医薬品・診断検査・創薬支援事業除く

2-3 成長戦略

フォーカスマーケット(ヘルスケア)

- ラジカヴァ™拡大とND0612（パーキンソン病）上市で2020年米国売上収益800億円をめざす



ラジカヴァ

ALS治療薬「ラジカヴァ™」(日本製品名「ラジカット™」)
2017年5月にFDAの承認取得8月8日発売開始、
米国で20年ぶりの新薬

ラジカヴァ™の承認は
新しいALS治療の第一歩となると期待

- 50名規模の販売体制の構築
- これまでにALS患者1000人に投与



Radicava™
(edaravone) IV infusion
30mg/100mL

ALS(筋萎縮性側索硬化症)

- 運動ニューロンが変性消失し、筋萎縮と筋力低下を引き起こす神経難病
- 米国では毎年約5,000人～6,000人*の患者さんがALSと診断されている

*出所：ALS Associationホームページより

2-3 成長戦略

フォーカスマーケット(ヘルスケア)

Muse 細胞を用いた再生医療製品の開発

- 第一適応疾患(心筋梗塞)の臨床試験の開始(2017年度中)
- 2020年度の申請、2021年度の承認を目指す
- 適応疾患の拡大を目指し、開発の加速化
- 再生医療製品製造施設の建設(2018年度)



2017 2018 2019 2020 2021 2025

第1適応症

心筋梗塞

臨床試験

申請

承認

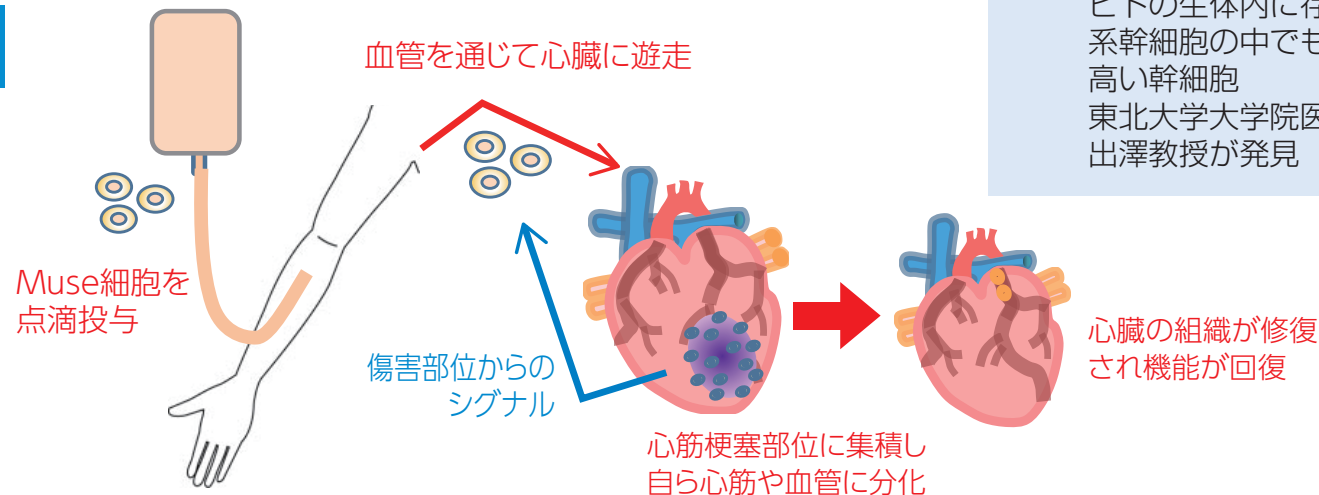
販売

第一適応疾患と並行して開発し、前倒しで承認取得をめざす

第2適応症

第3適応症

Muse細胞の特性



Muse細胞.....

ヒトの生体内に存在している間葉系幹細胞の中でも特に分化能の高い幹細胞
 東北大学大学院医学研究科 出澤教授が発見

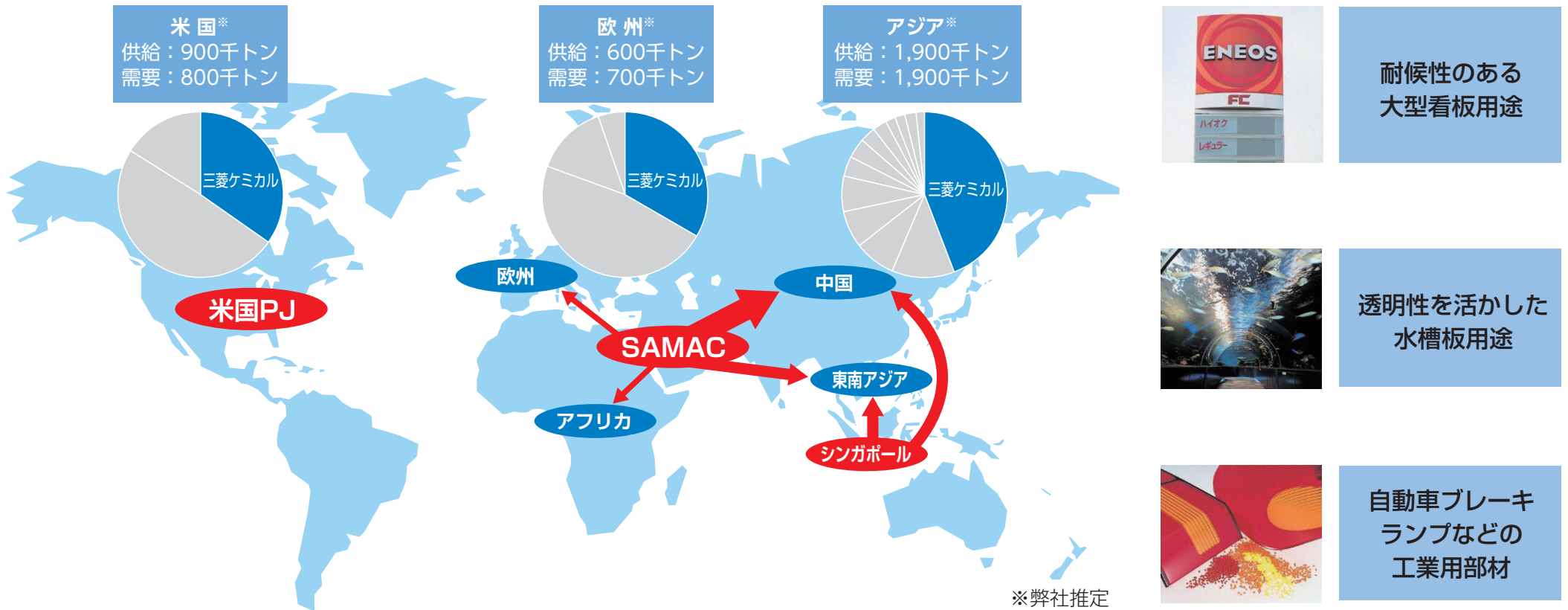
2-3 成長戦略

フォーカスマーケット(産業基礎素材)

- 圧倒的なコスト競争力のある技術を強みに、世界にアクリル樹脂原料を供給



MMA アルファ法のグローバル展開



トップシェアメーカー（世界生産能力シェア：約40%、売上高：約3,000億円）としてのグローバルオペレーションを実施し積極展開

■ 3社統合による協奏・成長及び合理化で440億円の収益向上を実施

協奏・成長

計 350億円 うち、2017年度中に20億円実施

自動車・航空機（モビリティ） 140億円

環境・エネルギー 70億円

IT・エレクトロニクス・ディスプレイ 30億円

パッケージング・ラベル・フィルム 30億円

メディカル・バイオ・フード 20億円

産業基礎素材 40億円

3社統合による合理化

計 150億円 うち、2017年度中に40億円実施

関係会社統合

- MCHCグループの関係会社約760社の25%削減を目標
MCCとしては、関係会社約400社の25%削減を目標

20億円

生産性向上 ・働き方改革

- UP! 20として生産性向上に向けた取り組みを実施
- 実労働時間削減による生産性の向上

20億円

共通部門合理化

- 共通部門の要員計画見直し、統制可能経費の2割削減

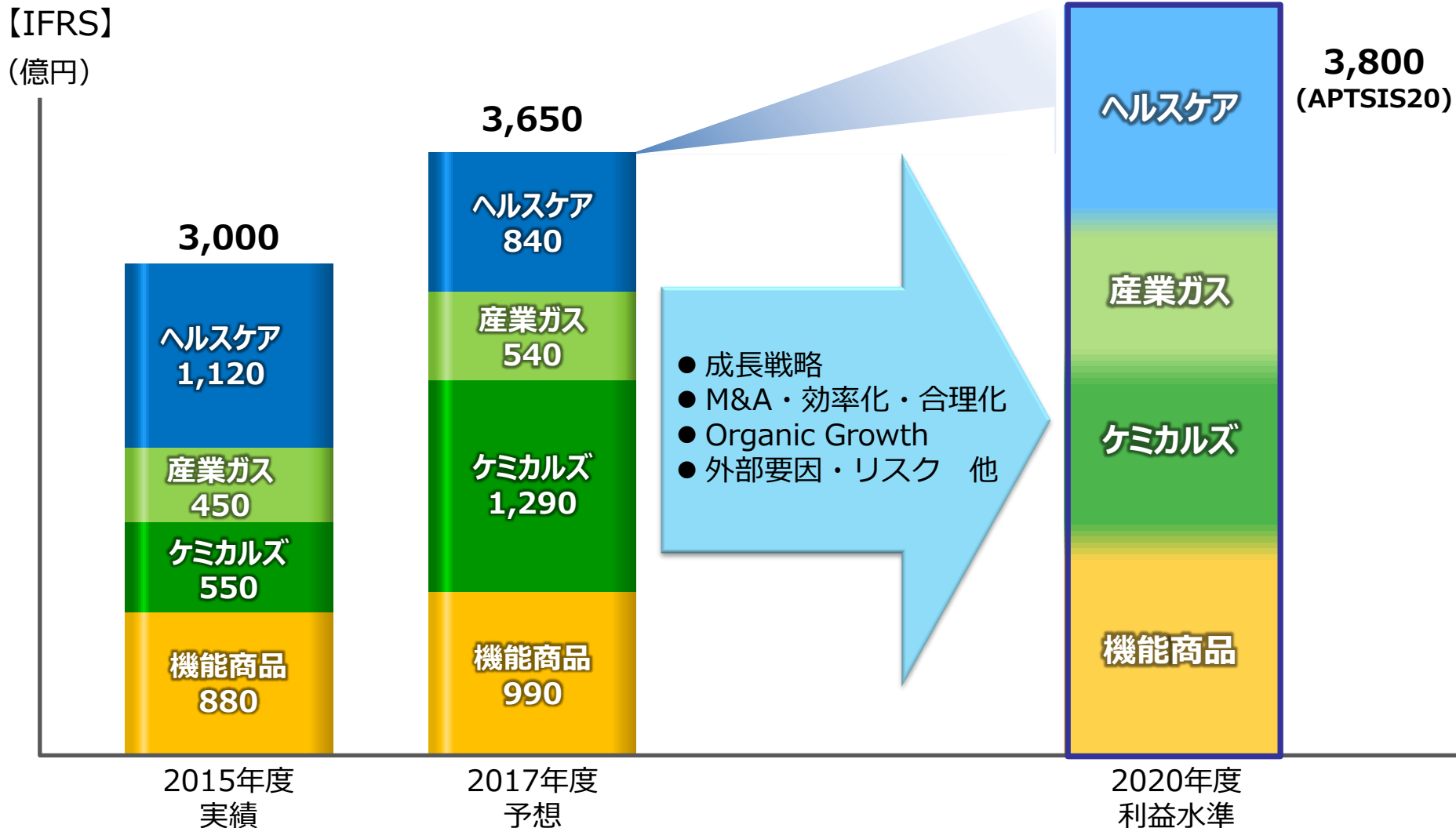
30億円

AI・IoT

- 生産・品質・開発・ビジネス・サービスの場で新規センサー・解析技術を含めたICT・AIの利活用により、生産性向上に貢献

40億円

■ 2020年度コア営業利益4,300億円を視野に、成長をさらに加速





3. KAITEKI経営の深化

THE KAITEKI COMPANY

私たちがめざすものは、“**時を越え、世代を超え、人と社会、そして地球の心地よさが続く状態**”であると考え、この状態を“KAITEKI”というオリジナルのコンセプトで表現しております。

■ 私たちは、製品・サービスを通じて社会的課題を解決します。

- 資源・エネルギーの効率的利用
- 清浄な水資源の確保
- 健康維持・疾病治療への貢献
- 気候変動への対応（CO2削減）
- 食料・農業問題への対応
- スマート社会への対応

SDG s

3 KAITEKI 経営の深化

KAITEKI経営とは

Management of Sustainability (MOS)

サステナビリティの向上をめざす経営

人と社会と地球の未来のことを、考え
企業活動を通じてさまざまな
環境・社会課題の解決に貢献する

MOS 評価指標(KPI)

- ・ 資源・エネルギーの効率的利用
- ・ 疾病治療への貢献
- ・ 社会からより信頼される企業への取り組みなど

Management of Economics (MOE)

資本の効率化を重視する経営

人材、資産、資金などの
さまざまな資本を効率的に活用し
利益を追求する

MOE 評価指標(KPI)

- ・ コア営業利益
- ・ ROE
- ・ ROICなど

Management of Technology (MOT)

イノベーション創出を追求する経営

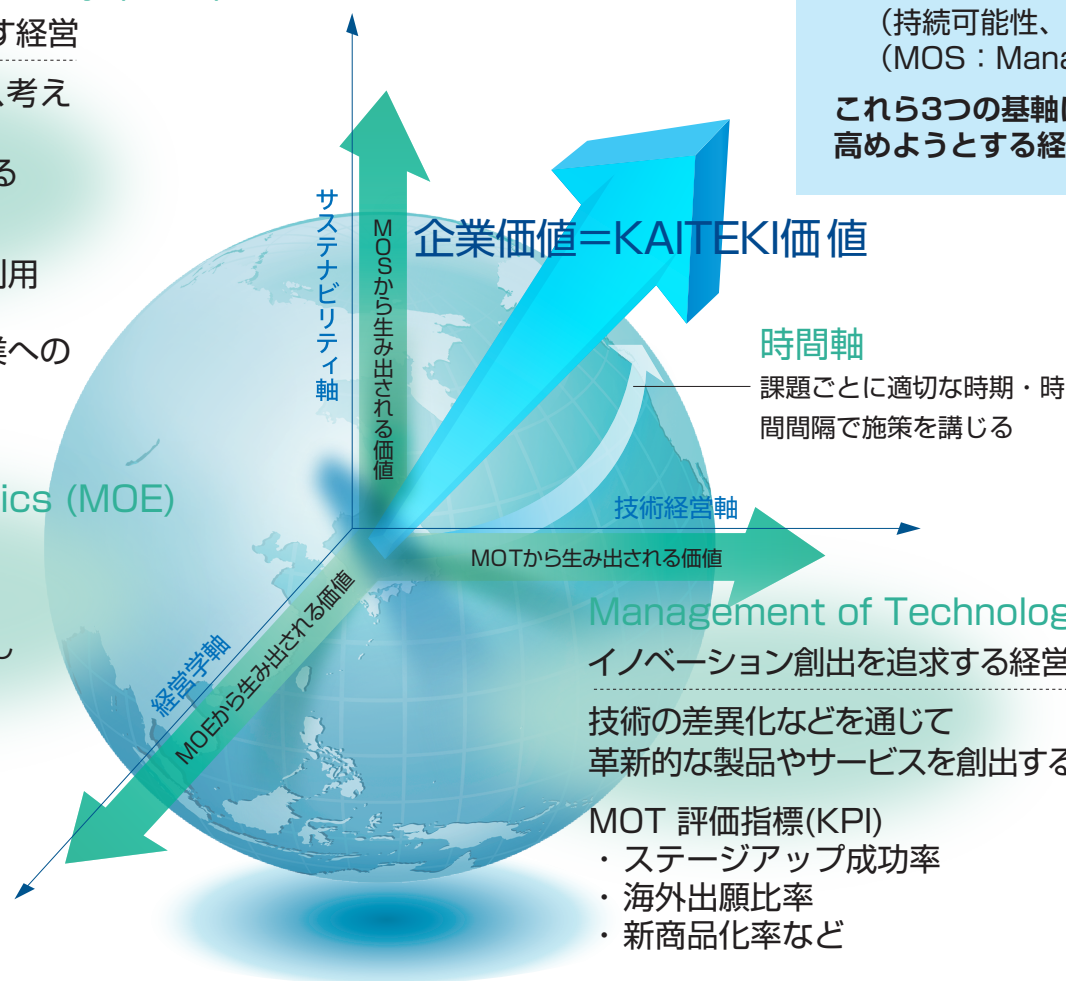
技術の差異化などを通じて
革新的な製品やサービスを創出する

MOT 評価指標(KPI)




- ・ ステージアップ成功率
- ・ 海外出願比率
- ・ 新商品化率など

- 資本の効率化を重視する経営
(MOE : Management of Economics)
- イノベーション創出を追求する経営
(MOT : Management of Technology)
- サステナビリティの向上を目指す経営
(持続可能性、維持能力) 向上を目指す基軸
(MOS : Management of Sustainability)

これら3つの基軸に時間の要素を加え、企業価値を高めようとする経営手法です。



■ 2016年度目標に対して達成率141%、2020年度目標に対しては31%の進捗

関連するSDGs	項目	2016年度実績	2020年度目標	進捗率
気候変動 	GHG排出削減 (Scope1,2 国内削減分) MOS指標 S-1-1	<ul style="list-style-type: none"> ●2015年度比 1,611千t-CO₂ 削減(10%) ●2013年度比 2,563千t-CO₂ 削減(19%) 	国内削減目標を達成 新たな目標を検討中 (当初排出量見込： 13,400千t-CO ₂)	—
	製品・サービスによるGHG削減貢献 MOS指標 S-3-1	46百万t-CO ₂ 削減貢献	150百万t-CO ₂	31%
資源・エネルギー 	省資源、再生可能材料への転換 MOS指標 S-2-2	1,965t 重油換算使用量削減	12,000t	16%
	再生可能エネルギー利用の推進 MOS指標 S-2-3	42Mw の利用推進	50Mw	84%
水 	水リスク対応	<ul style="list-style-type: none"> ●海外含めた製造拠点のリスクマップ作成 ●リスクの高い3カ所を実査、対応を確認 →CDP-Water Aリスト認定 (2017) 	—	—
	水資源問題解決への貢献 MOS指標 S-3-2	1.56億t の再活用水提供	累計 17億t	9%

3 KAITEKI 経営の深化

健康経営

■ KAITEKI 健康経営により、人と組織の創造性と活力を創出する



生産性と創造性の向上

職場の健康度や組織活性度の向上

健康意識や満足度の向上

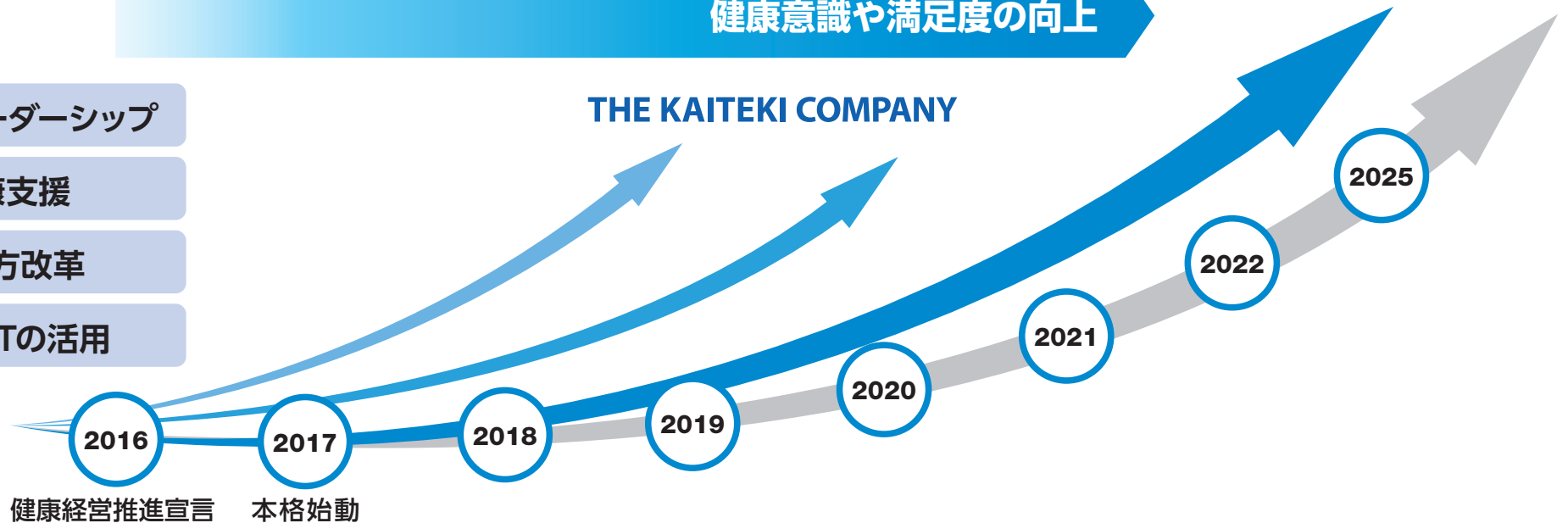
THE KAITEKI COMPANY

経営のリーダーシップ

健康支援

働き方改革

ICT/IoTの活用



従業員の健康や充実度、組織活性度等をKPIとして、生産性と創造性を限りなく向上させる

3 KAITEKI 経営の深化

健康経営

■ KAITEKI健康経営推進を通じて、会社・従業員のWin-Winの関係を構築し企業価値向上を実現

目標	カテゴリー	施策例
● 健康意識や満足度の向上 ● 職場の健康度や組織活性度の向上 ● 生産性と創造性の向上	経営のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康経営推進プロジェクトの発足 ● 各事業会社CHOの設置 ● 2020年までの推進計画立案 ● KPIの設定・運用によるPDCA推進
	健康支援	<ul style="list-style-type: none"> ● ウェアラブルデバイス(WD)の活用 ● 健康ポイント制 ● 生活習慣病予防イベント ● 健康白書配布 ● KAITEKI体操
	働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ● 健康・意識調査と改革 ● 会議のあり方改革 ● 仕事のやり方・取進め改革 ● 能力開発プログラム拡充
	ICT/IoTの活用	<ul style="list-style-type: none"> ● WD・健診・働き方データ等の一元化による効果的・効率的な健康経営施策推進

2017 年度中に KPI を設定してモニタリングを開始

ESG諸活動の進展により、第三者の企業評価が向上

2016年度 SRI等企業価値評価実績

日本政策投資銀行
環境格付融資



Aランク・特別表彰を獲得※1

RobecoSAM CSR 格付け



Bronze Class受賞

FTSE 4 GOOD
得点が25%向上



モーニングスター
社会的責任投資



組み入れ継続※2

2017年度 SRI等企業価値評価実績

FTSE Blossom
Japan Index
新規組み入れ



Dow Jones Sustainability Indices



world memberに
組み入れ

MSCI 日本株女性活躍指数



新規組み入れ

*1. 2016年11月日本政策投資銀行より環境格付融資を受け「環境への配慮に対する取り組みが特に先進的」と評価、モデル企業として特別表彰を受賞

*2. 2017年2月10日時点



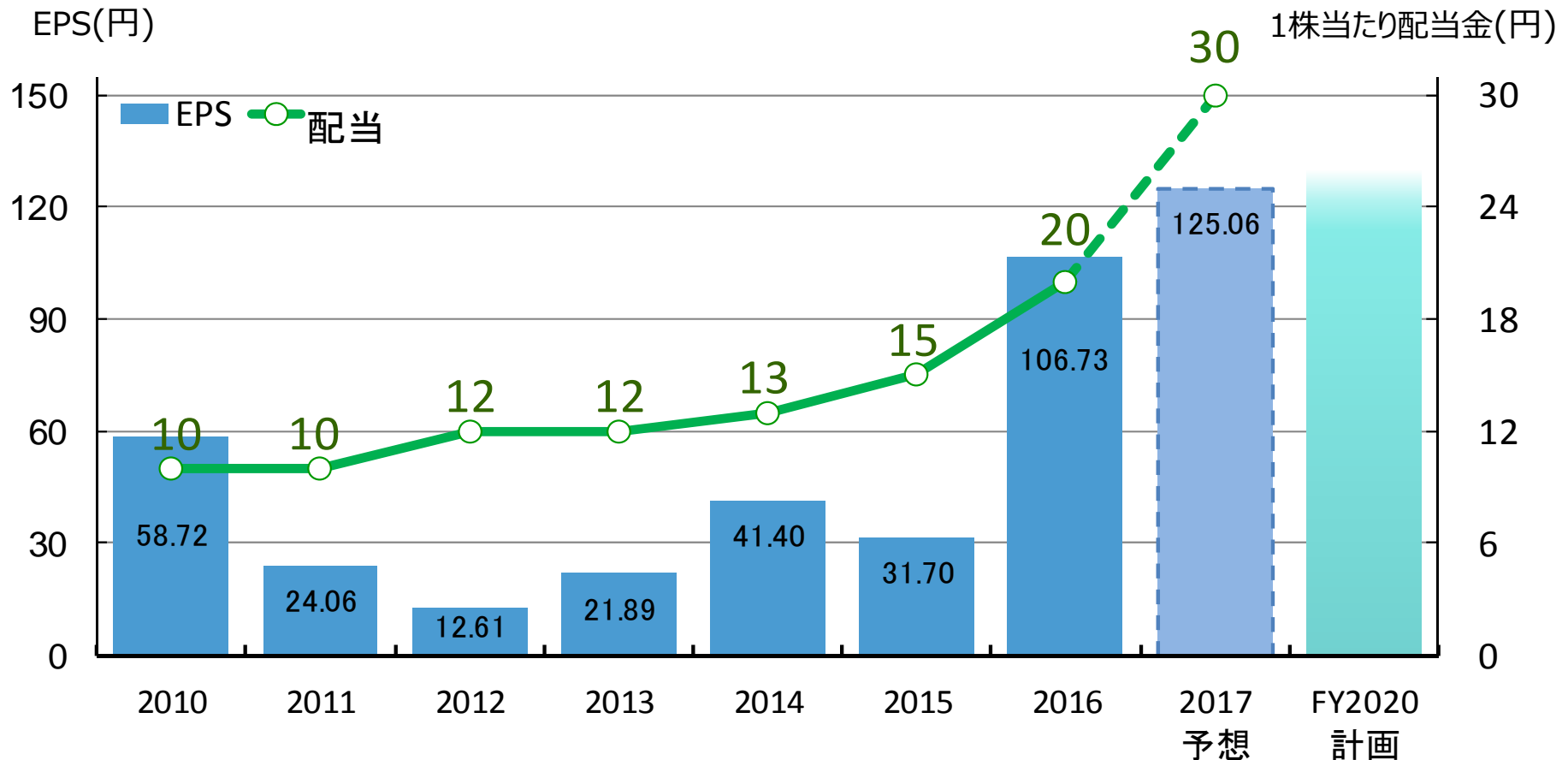
4. 当社の株式について

4 当社の株式について

株主価値の向上

株主還元の基本方針

- 企業価値の向上を通じ、株主価値の向上をめざす
- 配当政策については、成長投資・財務体質の改善とのバランスを考慮
 - 中期的な連結配当性向の目安を30%とする
 - 安定的な配当を実施する



ご清聴ありがとうございました。

THE KAITEKI COMPANY

三菱ケミカルホールディングスグループ

4 当社の株式について

株式情報

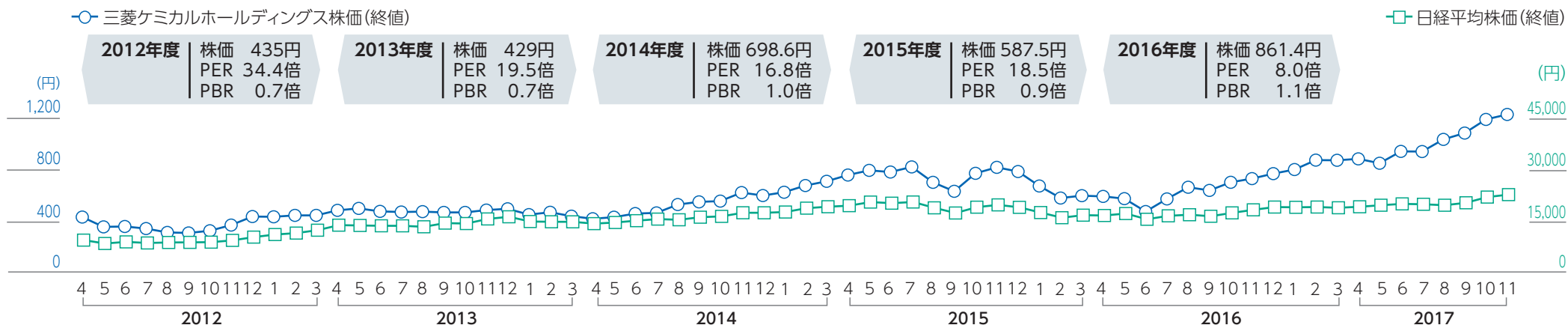
株式情報 (2017年3月31日現在)

● 上場証券取所	東証一部上場
● 証券コード	4188
● 一単元株式数	100株

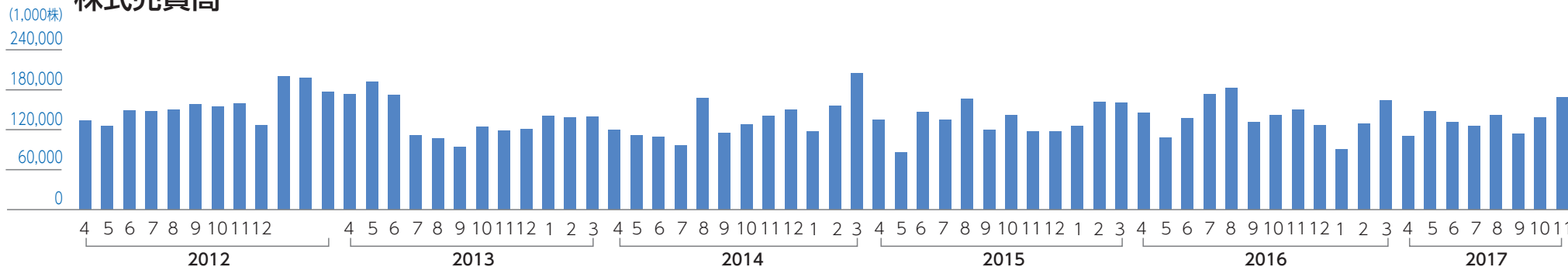
● 発行済株式数	1,506,288,107株
● 株主数	165,467名
● 株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社

株価/株式売買高

株価



株式売買高



本説明会および本資料における見通しは、現時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、業績予想と大きく異なる可能性があります。

当社グループは、情電・ディスプレイ関連製品、高機能成形材料、高機能ポリマー、MMA、石化製品、炭素製品、産業ガス、医薬品等、非常に多岐に亘る事業を行っており、その業績は国内外の需要、為替、ナフサ・原油等の原燃料価格や調達数量、製品市況の動向、技術革新のスピード、薬価改定、製造物責任、訴訟、法規制等によって影響を受ける可能性があります。但し、業績に影響を及ぼす要素はこれらに限定されるものではありません。